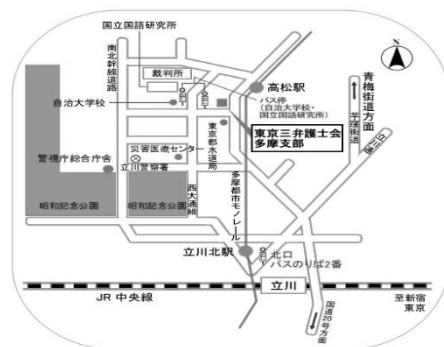


『取り残された人々：日本におけるシングルマザーの苦境』 上映会&シンポジウム



2025（令和7）年10月4日（土）
弁護士会多摩支部ひまわりホール（13時開場）
上映会：13時30分～14時50分
シンポジウム：15時～16時40分

入場無料（先着100名様）



先進国でありながら子どもの7人に1人が貧困状態の日本。戦後、短期間で経済の急成長を遂げ豊かになった日本だからこそ起きてしまった「隠された貧困」。映画『取り残された人々』は、シングルマザーの苦悩を様々な角度から取材し、不平等な社会的背景の原因を紐解き、日本の子ども全体の13.5%が貧困である真実を照らし出します。同映画は、世界各国の映画祭で17の賞を受賞し、国内外の様々な映画祭で41回の公式選出を果たしています。上映後、同作品の監督ライオン・マカヴォイ氏、府中緊急派遣村の松野哲二氏、府中市議の西荻なお美氏が、日本の隠された貧困、シングルマザーの現状を報告、議論します。是非この機会にご参加ください。



ライオン・マカヴォイ
オーストラリア出身。東京にてジャパンメディアサービス株式会社設立。社会的意識と変革促す映画を製作。



松野哲二
府中緊急派遣村の共同代表として生活困窮者の支援に取り組む。相談会場を設け、支援物資の配布、生活保護受給への支援、日常的な相談・見守り活動などを実施中。



西荻なお美
府中市議。コロナ禍でひとり親家庭からのSOSが多数届いたことからフードパントリーを始め、以後、子どもの進学や、孤立する女性の相談、DV問題への支援など家族支援にもかかわる。

主催 東京三弁護士会多摩支部 TEL:042(548)3800

（お問合せ：東京三弁護士会多摩支部 憲法に関するプロジェクトチーム担当事務局）